

CIGRE WG B3.29(UHV 変電所の建設・運用時の現地試験技術)東京会議開催報告

WG B3.29 主査 Guangfan Li/幹事 上原 京一

WG B3.29(Field tests technology on UHV substation construction and operation)の第4回会議が、7月21-22日に東京(株東芝 本社 会議室)で開催されました。今回の会議には、3ヶ国から総勢15名の方が参加され活発な討議が行われました。

中国、インド、日本などの各国でUHV 系統(電圧1100kV~1200kV)の建設計画が具体化され、UHV 変電所として考慮すべき技術要件を本WGの前身であるWG B3.22が調査・検討を行い、2009年末に技術報告(No.400)を発行いたしました。これに引き続き今回の活動では、UHV変電所の送電容量が極めて大きいことから変電所の停止が社会に与える影響が大きく、信頼性をどのような形で確保していくべきかの観点でUHV変電所における現地試験に関する調査・検討を行っています。

特にUHV変電所で機器の不具合が発生した場合は、機器諸元が大きく非常に重量物である為、機器の点検や機器の修理に非常に時間がかかる為、現状行われている800KV/UHVクラスの変電所の機器やシステムの現地試験やコミッショニング試験がどのようになっているか調査・検討を進めることとしました。

2010年5月にB3.29のWGのToRが承認され、第1回のWGを2010年6月に中国・北京で行いました。東京会議は、4月初旬の桜の時期に計画していましたが、東日本大震災で延期され今回開催したものです。中国がUHV送電を実用化したこともあり、Convener にGuangfan Li(中国・CET(中国装備公司))が就任し、日本が、Secretaryとなりこの活動をサポートする形で進めて来ています。

UHV変電所で行われる、現地受け入れ試験、コミッショニング試験、特殊試験と保守・点検に分けて議論を進め各国のUHV変電所の現地試験の状況がこれまでの会議で紹介され協議して整理を行い、技術報告書のDraft「Field tests technology on UHV substation construction and operation」(現時点で78ページ)を今回取り纏めました。また今後実施するアンケートについても最終案を議論し、アンケートを実施してその内容を報告書に取り込む予定です。

会議で十分な議論ができ、会議終了後の夕食では、和食と日本酒で日本の文化を知って貰い更により良い人間関係を構築することが出来たと考えます。盛会の内に第4回東京会議を終えることが出来ました。中国委員、インド委員からもホストの日本に対して多くの謝辞を頂きました。



図. 1 B3.29(UHV 変電所の建設・運用時の現地試験技術)の会議風景(7月21日)